

3.2. 名所の類型と分析

本節では『江戸名所図会』に中で名所とされた対象を明らかにするために、まず690枚の絵の表題のみに対して[表1]のように名所の種類の類型化を行った。その名所の種類の類型をもとに、表題・文章から統計をとった。一つの図版から複数個の名所を数える事もある。なお、表題だけを統計の対象としなかったのは、表題を便宜的に図の総称としてつけられる場合が有り、文章の中で具体的な見所となる名所を補足する場合が有るからである。

右にそれをまとめたものを示す。黒字で描かれた名所は人工物に関する名所で緑字のものは自然物に関する名所を指す。なお、「宗教施設」とは寺院や神社などの宗教施設の呼称、「その他」は町や村の名前、行事、歴史的出来事や神話の描写などを指す。

この統計によると『江戸名所図会』は非常に多くの宗教施設を名所として取り上げている事がわかる。「その他」を除いた全体の55%が宗教施設であった。また、「橋」、「川」、「河岸・土手・渡・海辺・塩浜」、「池」、「泉・井戸」など上位の多くは水に関係のある名所で合計すると全体の16%、次点の「店、名産、工場」は4%にすぎない。

この事から、高さが場所を名所とする要因と成り得るかどうかを検討するに際して、宗教施設の重要性が非常に高い事が分かる。塔は唯一「中野塔」という名所として取り上げられた。火の見櫓や城は単体で名所絵の表題と成ったものは確認できなかった。

宗教施設	415
橋	31
店、名産、工場	29
川	29
河岸、土手、渡、海辺、塩浜	27
墓、塚	23
眺望	21
祭り	20
樹木	19
池	18
山	15
坂	15
原、馬場、旧跡、木場	15
泉、井戸	14
林泉、庭	10
通り、道	9
茶屋、茶飯	7
門、戸	6
市	5
林、森	4
石、岩	3
芝居小屋、土弓	3
地藏、大仏	2
駅	2
谷	2
塔	1
丘	1
その他 (場所、行事、名所以外)	166

表1-名所とされるものの類型

3.3. スカイラインの分析

3.3.1. 分析方法

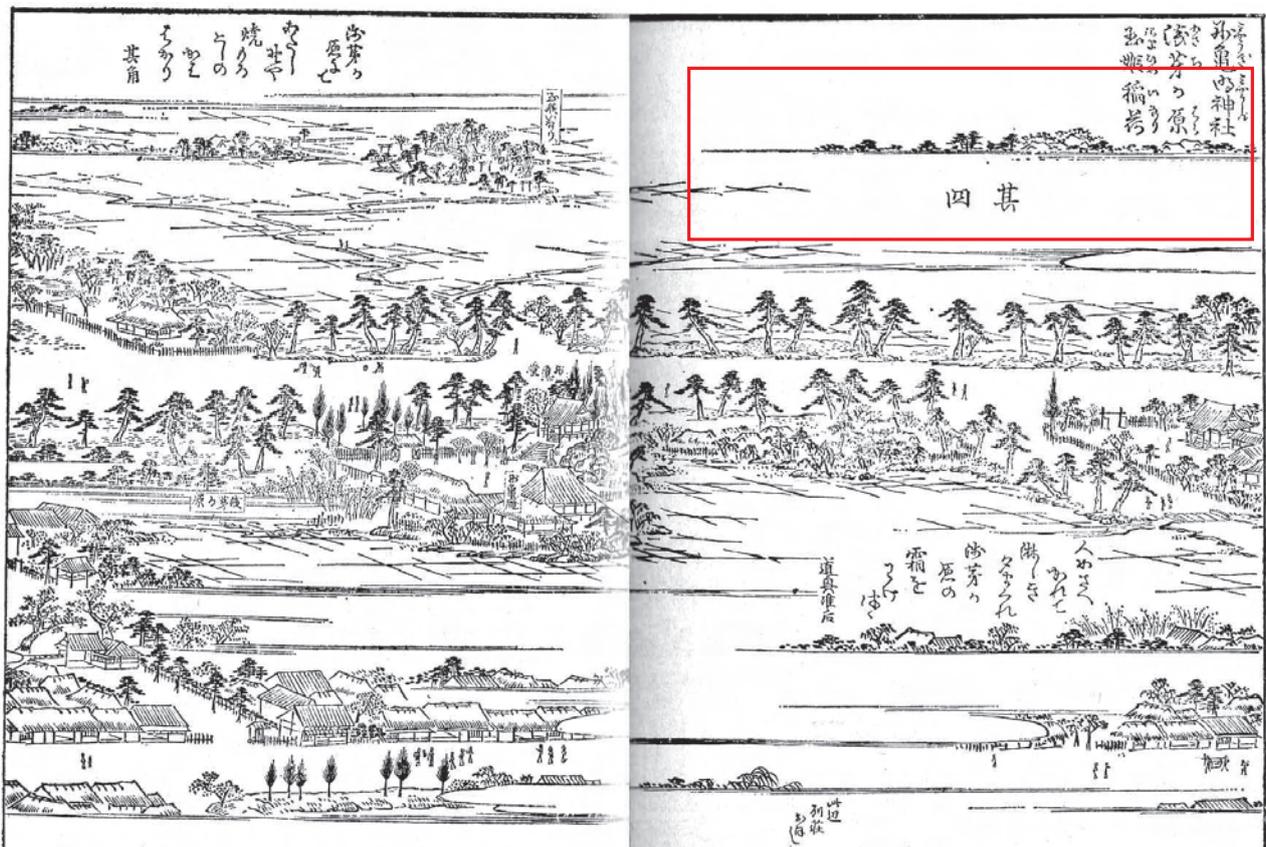
本節では『江戸名所図会』におけるスカイラインを構成している対象を明らかにすることで、実際に垂直要素として見えたであろう要素を明らかにするため、「遠景」と定義づけた描写366枚を対象に主な項目について統計を取った。

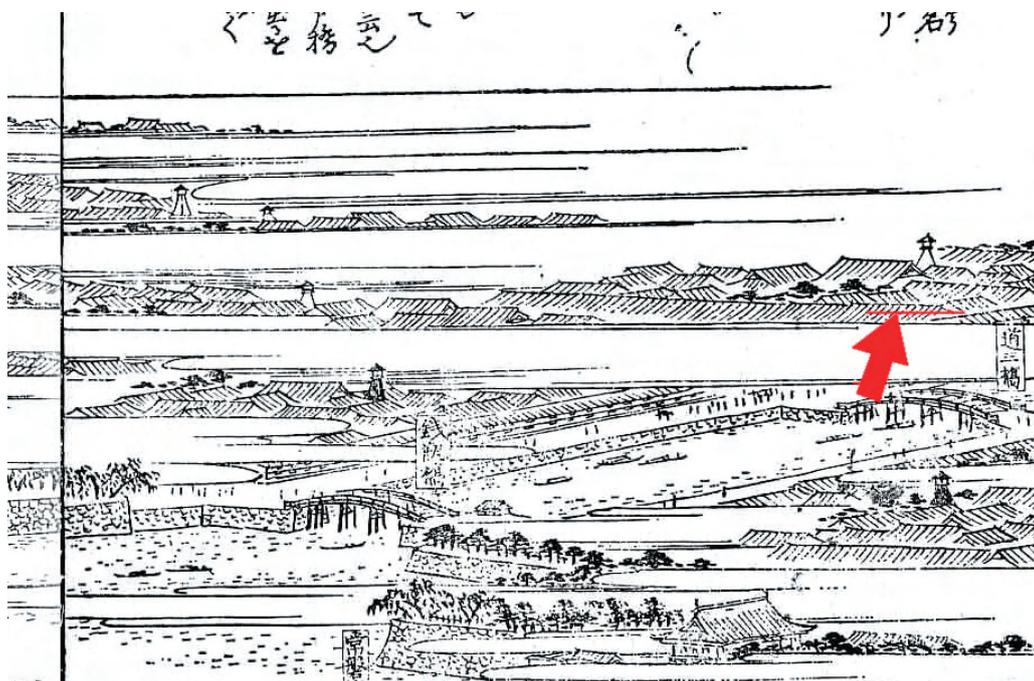
遠景とは雲によって主題の図から切り離された風景、もしくは明らかに図のコントラストを下げる事によって遠くにある事を示している図、縮尺を前面の図と明らかに異なるように描く事によって遠くにある事を示しているものとした。また、雲によって前景と切断されている物に対しても、軒が続いている事が認識できるなど、明らかに奥行きを断絶ではない雲による切断は分析対象から除外した。ちなみに日本画における雲は、遠近法なく奥行きを表現する手法として多く見る事ができる。

この景色の特徴は、鳥瞰的な構図で全体が描かれている図においても立面的に立ち上がるように描かれる事が多いため対象同士の高さを相対評価する際、比較的作者の意図の通りの高さ関係を判断する事ができる事である。遠景の例を下図の赤枠で示す。

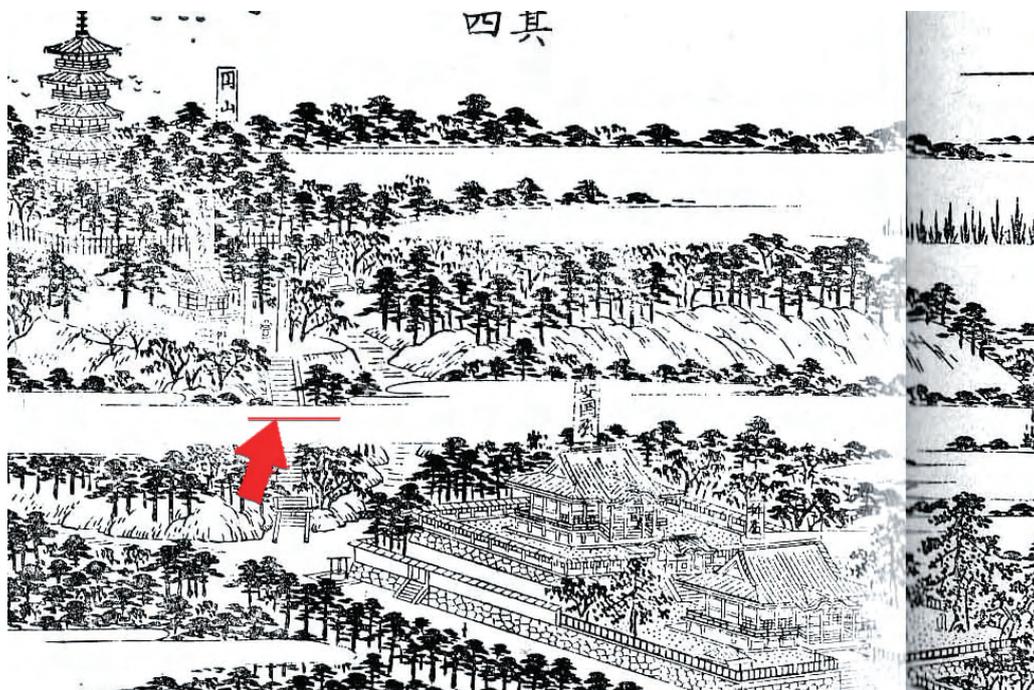
遠景に適す例

赤枠内が遠景である。





雲によって上下を分断されているが、明らかに軒が連続している事が分かる。



雲によって上下を分断されているが、明らかに階段が連続している事が分かる。

3.3.2. 分析

前節で述べた366枚の遠景に関する統計の結果を〔表2〕に示す。

ここで得られた考察を以下に示す。

1 『江戸名所図会』に描かれた遠景には樹木や山が最も多く書き込まれている。

2 人工物の多くは1、2階建てのもので平らな景色を作っている。

3 遠景の中で高さが突出した人工物は、宗教施設の屋根、見世物小屋の屋根、見附門の屋根、多層塔、江戸城、火の見櫓、はしご、材木屋の木材、網、旗、寺の旗をかざす棒、のぼりであった。

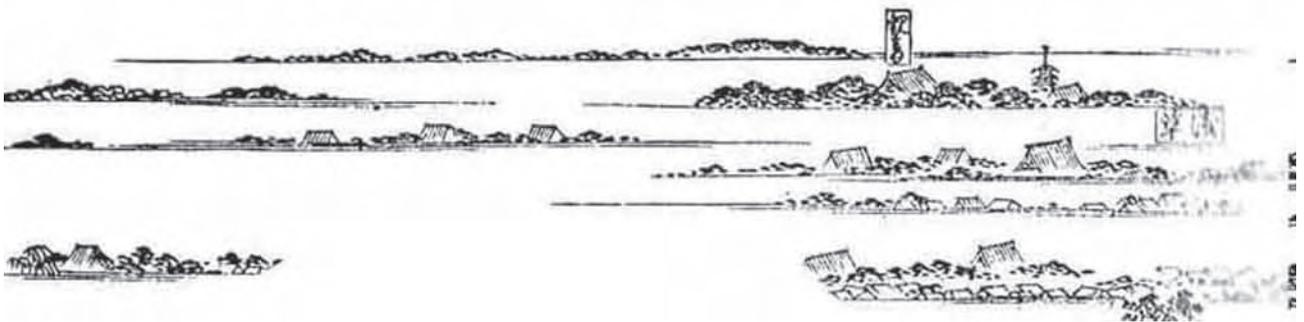
4 遠景の中でもっとも多く突出していた人工物は29件の高さが突出した大屋根で、次点が火の見櫓はしごの8件であった。このことより、『江戸名所図会』に描かれた江戸の都市空間における垂直要素の象徴性を考える時、宗教施設の屋根、次いで火の見櫓が重要であると結論づけた。

樹木	347
山	167
高さが同様な屋根群	137
高さが突出した大屋根 [※]	29
火の見櫓、はしご	8
五重塔	3
材木屋の木材	2
江戸城	1
網	1
旗	1
寺の旗を掲げる棒	1
のぼり	1
見世物小屋の屋根	1

表2- 遠景の類型

※「高さが突出した大屋根」は、主に宗教施設の屋根の事であるが、それ以外にごくまれに見附門の屋根も入るが、一つ一つは遠景のため判断する事が不可能であった。また、判断可能な塔状の建物の屋根（多層塔、江戸城）と見世物小屋の屋根はこれから除いた。

雨香 春衣 花歸 歌處 雪飛



美 遠 山 王 社 永 寺 峰 山

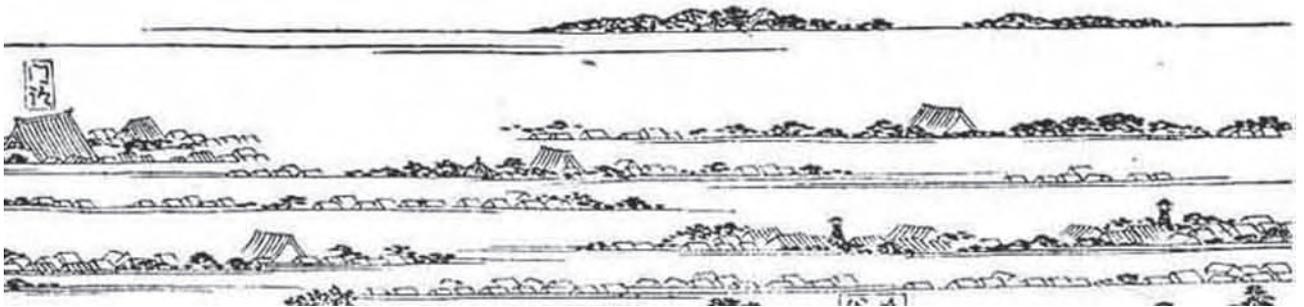
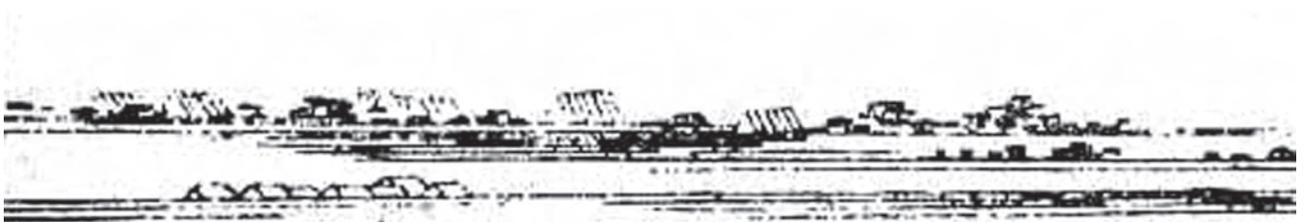
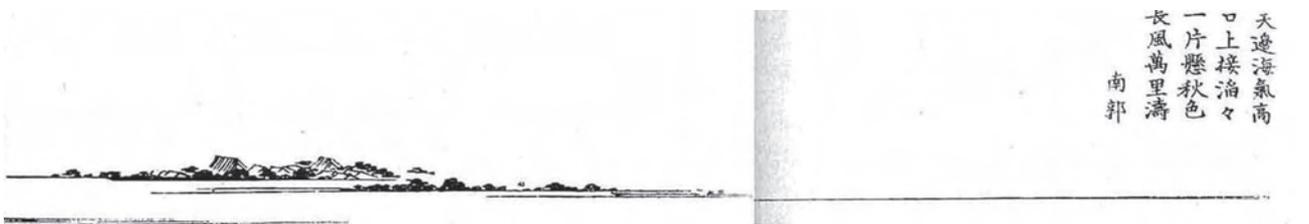
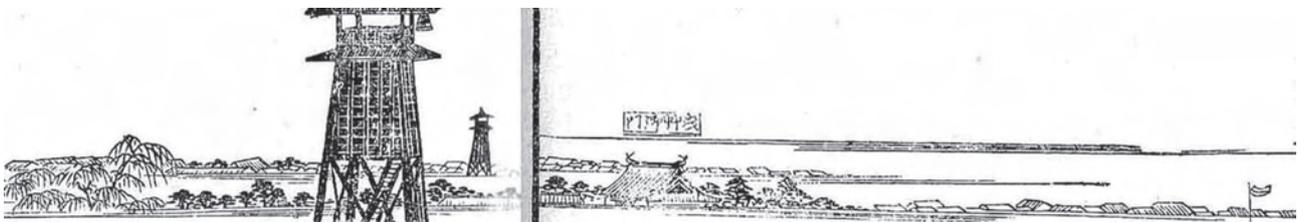
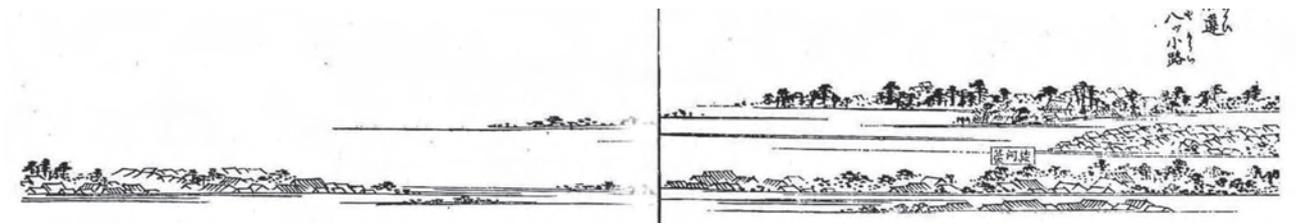
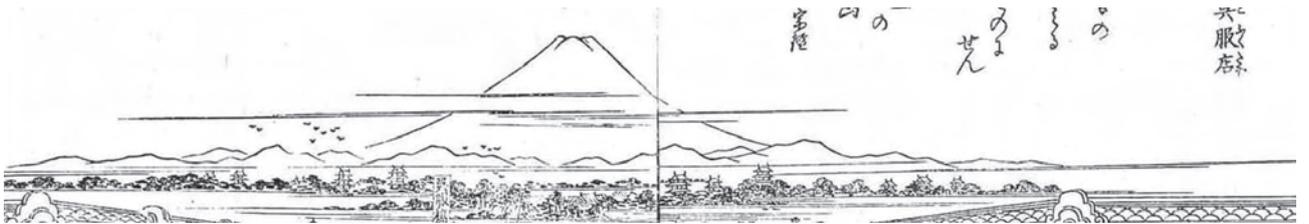
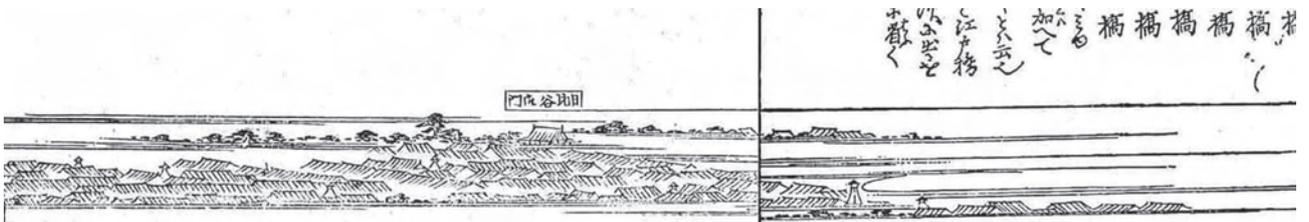


fig-3-2-2-1「東叡山寛永寺 桜の峰 山王社」の遠景

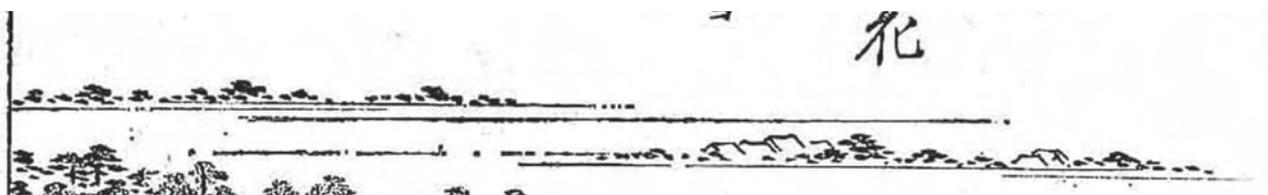
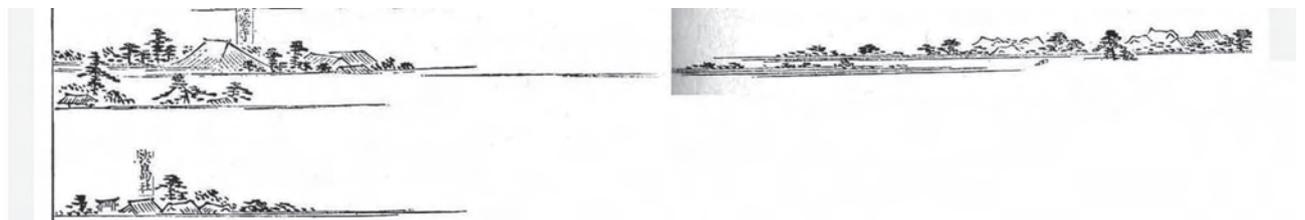
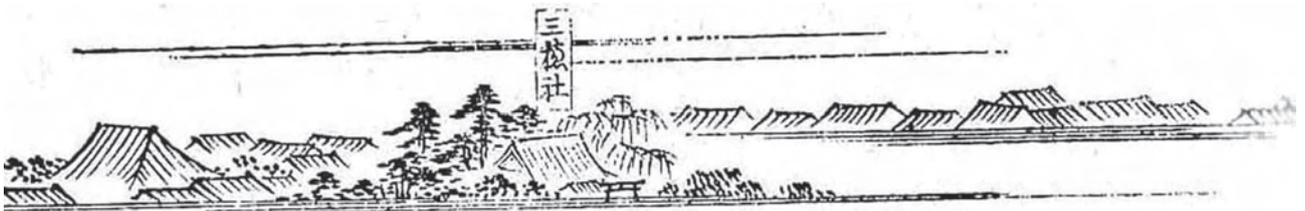
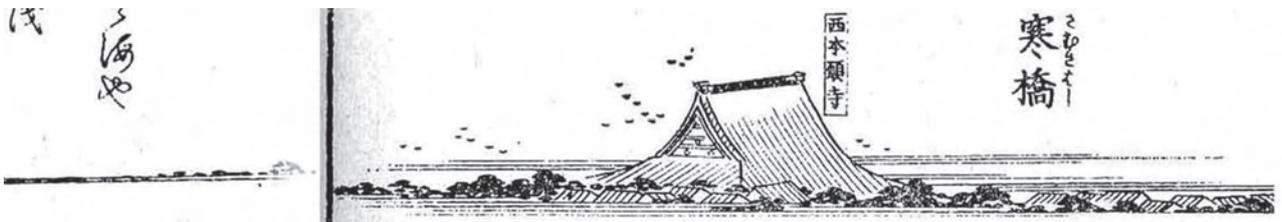
採取した遠景の中でも特に fig-3-2-2-1 で示した上野にあった寛永寺から浅草の町を見下ろした際の遠景が魅力的である。この遠景において屋根が突き出ているものは約 20 個程あるが、大屋根の形が各々相似形であるため、この風景で屋根から突き出たものを形態で分類すると大屋根・火の見櫓・塔という 3 種類のみで構成されている事がわかる。相似形の大屋根群もよく見ると数種類程度大きさのパターンしか無いように思える。遠景は多焦点的に構成され、一番際立った垂直性を作り出している象徴をこの遠景から見いだすのは困難な印象を受ける。

以下、全ての採取した突出した大屋根の遠景を次項に掲載する。

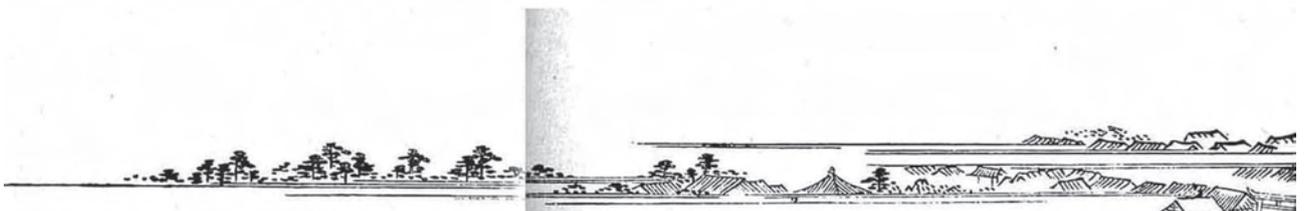
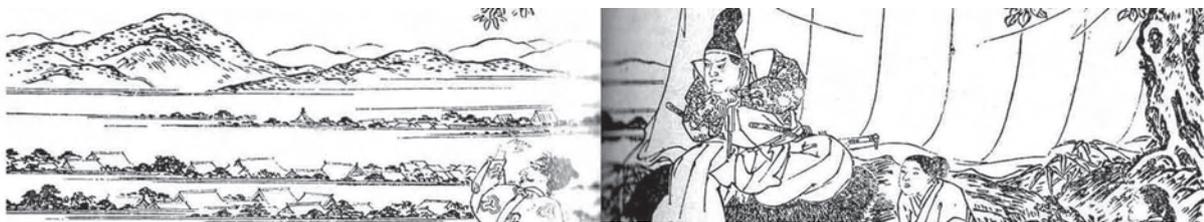
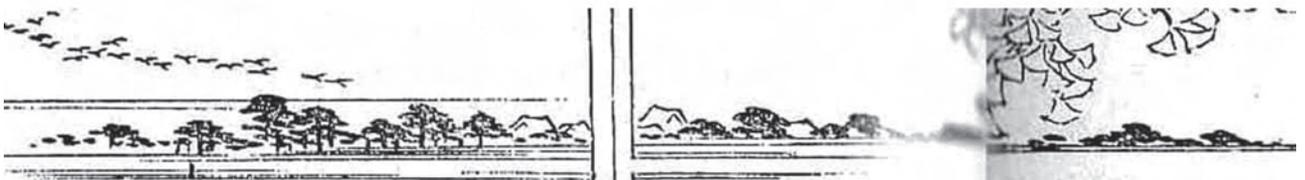
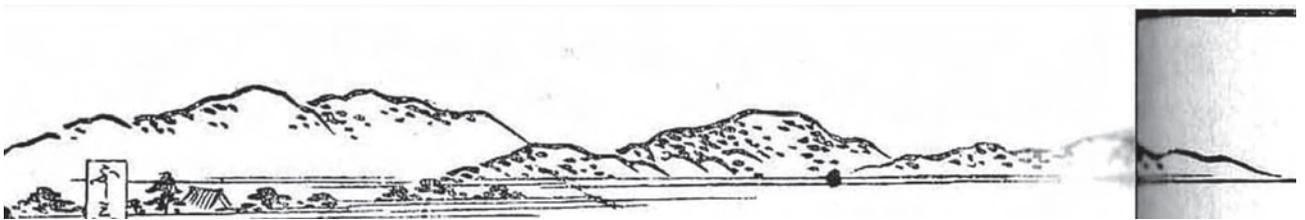
突出した屋根が描かれた遠景 1



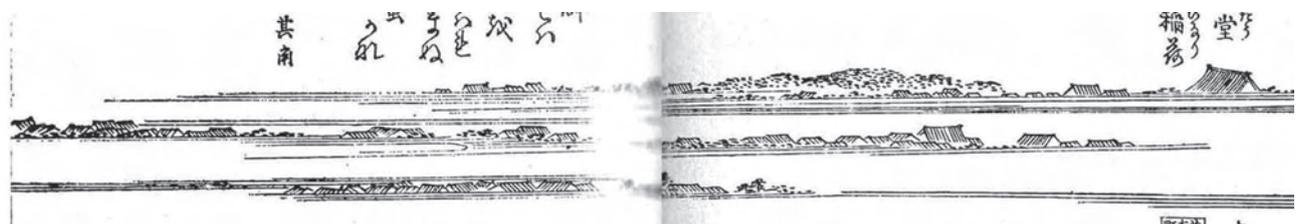
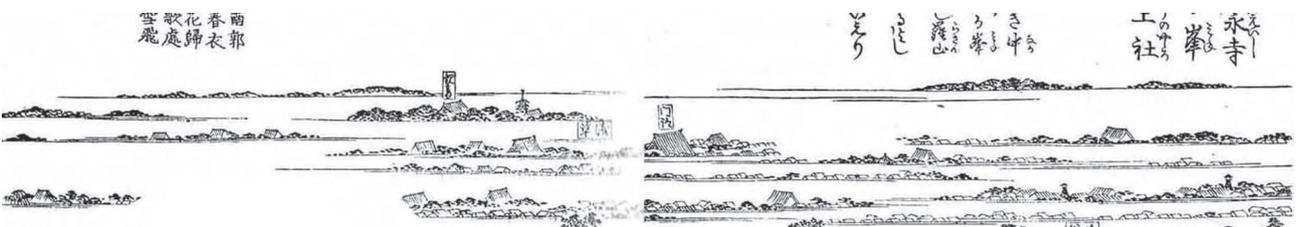
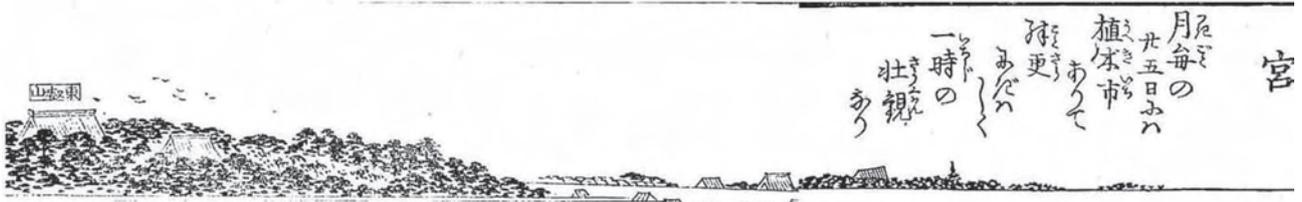
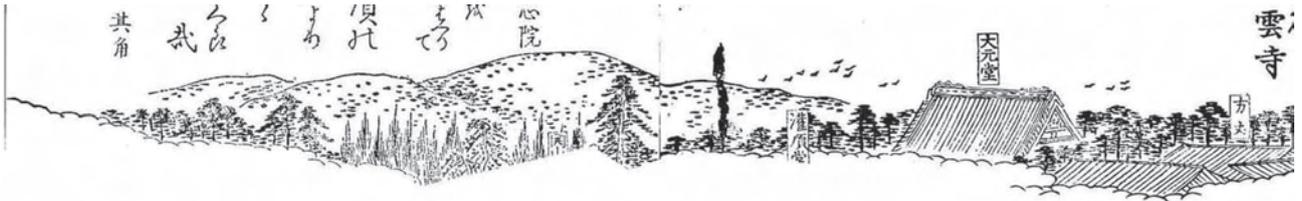
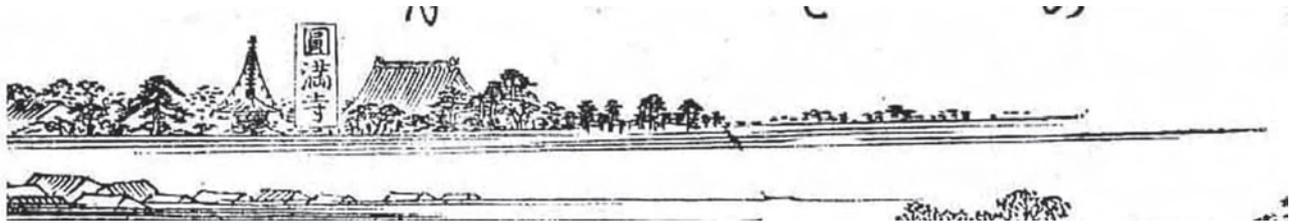
突出した屋根が描かれた遠景 2



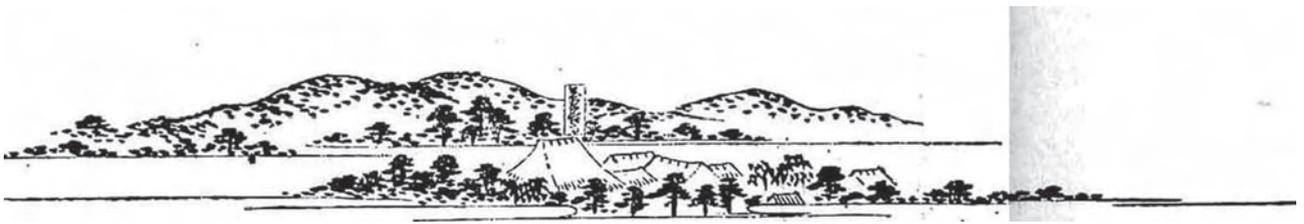
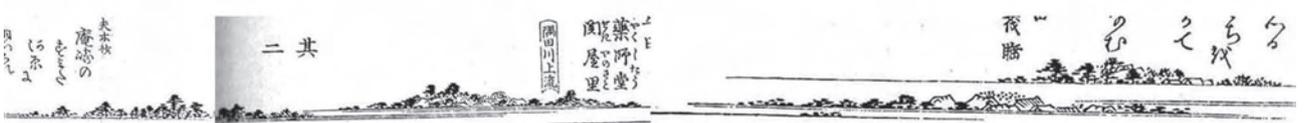
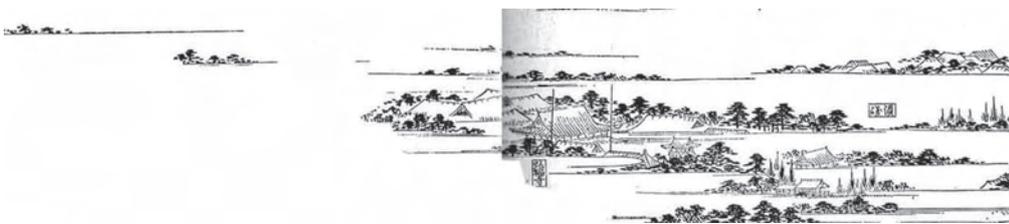
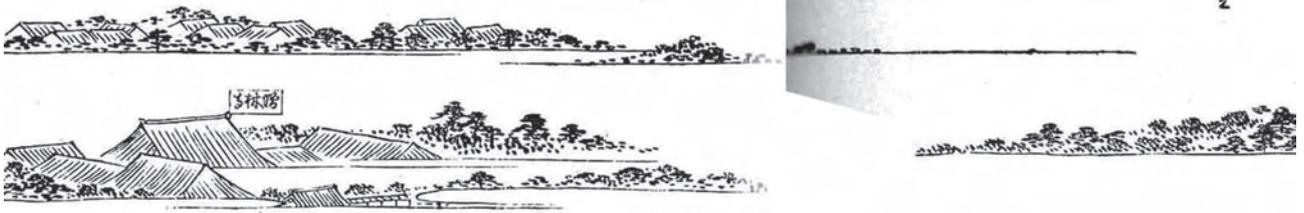
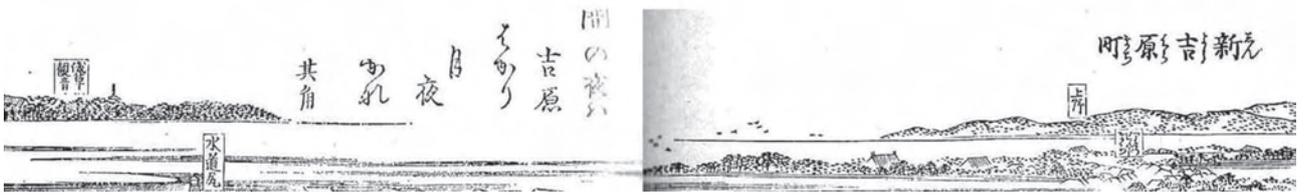
突出した屋根が描かれた遠景 3



突出した屋根が描かれた遠景 4



突出した屋根が描かれた遠景 5



3.4. 象徴性に関する分析

3.2.、3.3. よりその象徴性を分析する対象を宗教施設、火の見櫓、仏塔、それ以外の方形屋根をもった建築（以下、方形建築と呼ぶ）とした。それらの分析を通して江戸では、「高さ」（宗教施設、火の見櫓、仏塔）や「四対象の形態」（火の見櫓、仏塔、方形建築）がその建築の象徴性を高める事と関連性があるかについて検討した。

3.4.1 宗教施設における中心的建物の分析

3.4.1.1. 分析方法

本節では、『江戸名所図会』において極めて多く名所とされた宗教施設の中心的建物の象徴性を検討するため、宗教施設の伽藍内で中心的建物と定めた建築物について高さ、伽藍内の配置について宗教施設を名所としているもの334枚の図版のなかから統計をとった。中心的建物とは本社、本堂、本殿、もしくはその図版の表題とされている建物（観音堂などがある）とする事とした。

統計の調査項目は以下に示す。

- A 中心的建物と他の建物や樹木などのものとの相対的な高さ関係
- B 伽藍内での中心的建物の位置
- C 中心的建物と拝殿の高さ関係

そのため以下の件数を数えた。

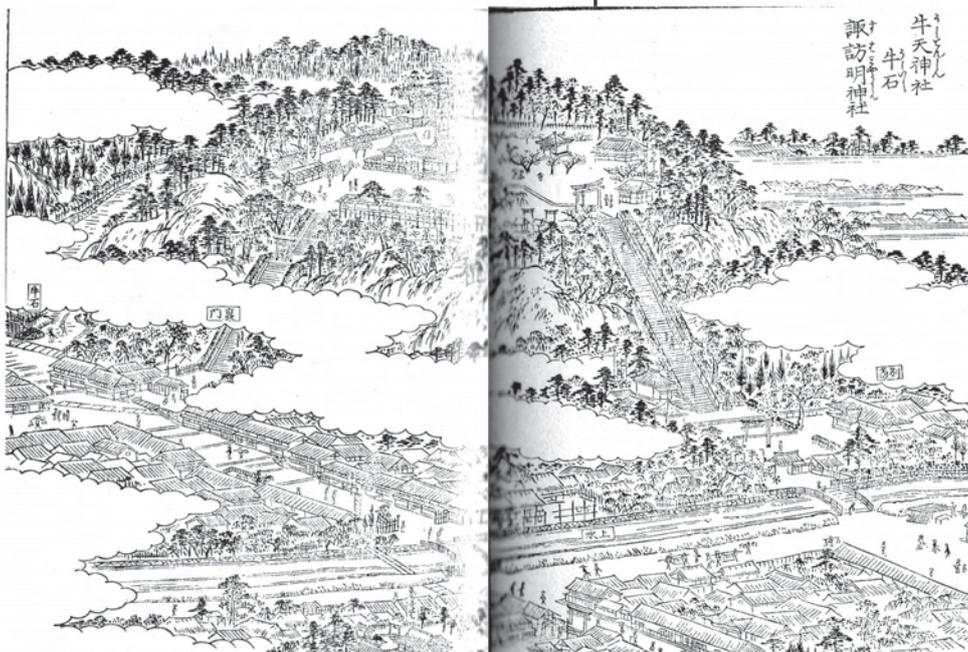
- 1 伽藍内に建っている建物の中で中心的建物が一番高い建物である件数。
- 2 樹木も含めた伽藍内の全ての物の中で中心的建物が一番高い物である件数。
- 3 中心的建物が建っている伽藍が立体的に展開されている伽藍である件数。
- 4 中心的建物が立体的伽藍に建っている時、その建物が一番高くに位置する地盤に建てられている件数。
- 5 中心的建物の前面に拝殿が備えられている件数。
- 6 拝殿より中心的建物が明らかに高い件数。
- 7 中心的建物より拝殿が明らかに高い件数。

なお、高さの相対評価は目測で行った。また、それは明らかに高いと判断した時のみをカウントすることとした。特に、中心的建物（この場合本社）と拝殿は同様の高さに作られているケースが多々あるため特にこの点を注意した。

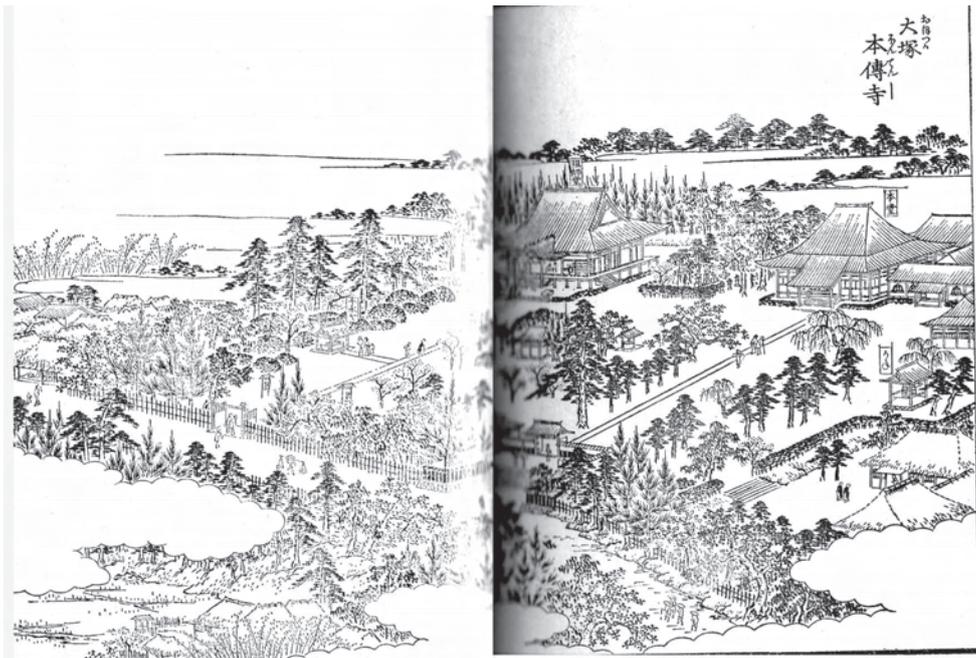
伽藍が平面的か立体的かの判断は、正面の門や鳥居から奥の明らかに伽藍で無くなると判断できる場所（例

えば塀や樹木群) までの空間の領域内に階段が5段以上あるものとした。5段というのは分析をしてきた結果経験則から引き出した。ただし明らかに建物や墓、基壇などオブジェの基壇に対する階段であると判断できる物については除外した。また、伽藍の全景が記載されていないものに関しては明らかに判断できるもの以外は対象外としてカウントしなかった。以下、分析例を示す。

なお、統計データは本論最後の付録に載せた。

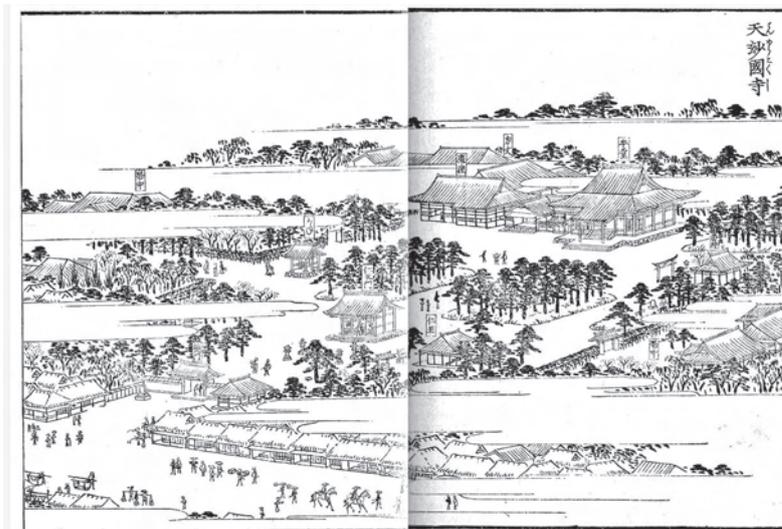


立体的な伽藍の例。中心的建物が一番高い建物であるが、一番高いものではなく、本社と拝殿の関係はほぼ同じ高さである。

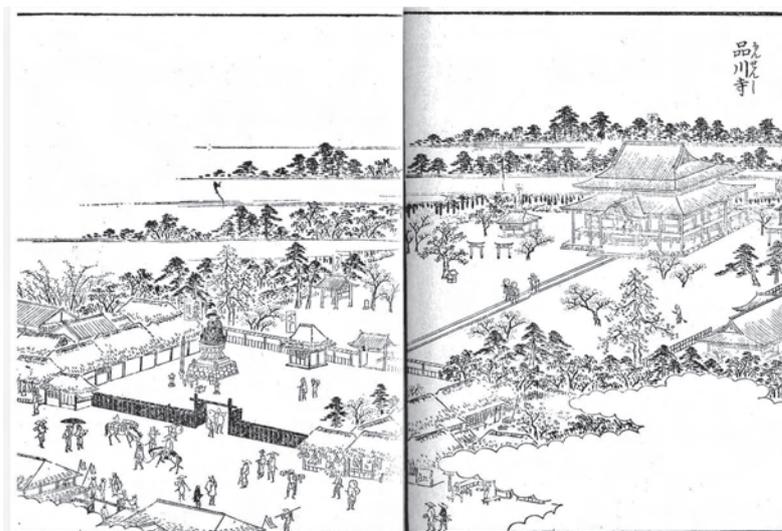


分りにくい立体的な伽藍の例。右下に9段の階段があり、下に低い高さに位置する地盤が展開している。

宗教施設が描かれた絵の例 1



中心的建物 : 本堂
 一番高い建物 : 本堂
 一番高いもの : 本堂
 伽藍形式 : 平面

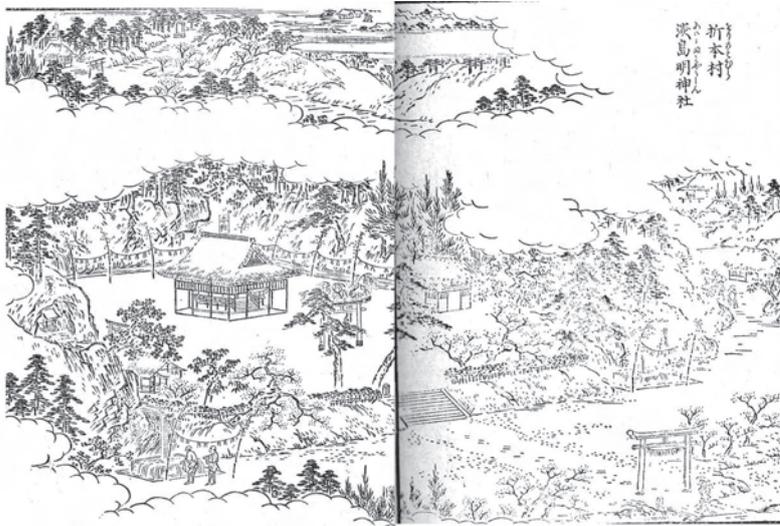


中心的建物 : 本堂
 一番高い建物 : 本堂
 一番高いもの : 本堂
 伽藍形式 : 平面



中心的建物 : 本社
 一番高い建物 : 特定不可
 一番高いもの : 樹木
 伽藍形式 : 平面
 拝殿の有無 : 有り
 本社と拝殿の関係 : 本社＝拝殿

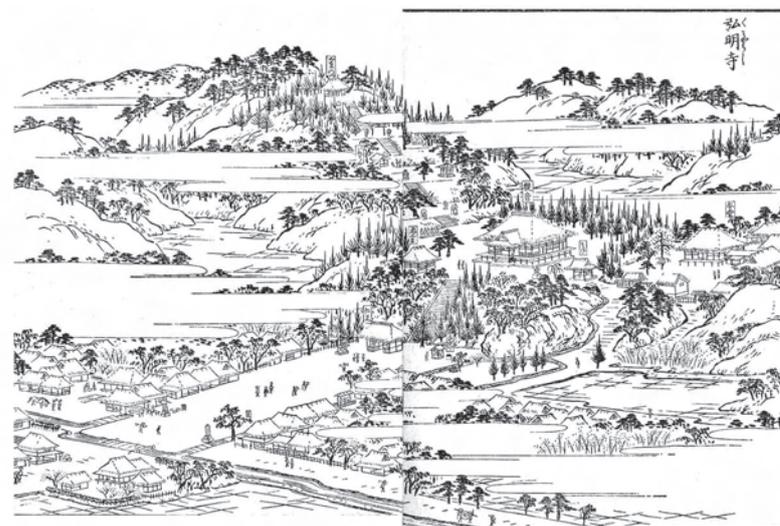
宗教施設が描かれた絵の例 3



- 中心的建物 : 本社
- 一番高い建物 : 本社
- 一番高いもの : 樹木
- 伽藍形式 : 立体
- 中心的建物の立地 : 最上部



- 中心的建物 : 本社
- 一番高い建物 : 本社以外
- 一番高いもの : 樹木
- 伽藍形式 : 平面
- 拝殿の有無 : 有り
- 本社と拝殿の関係 : 本社 < 拝殿



- 中心的建物 : 本堂
- 一番高い建物 : 本堂以外
- 一番高いもの : 本堂以外
- 伽藍形式 : 立体
- 中心的建物の立地 : 最上部以外